

# 蓬萊町だより

第十五号  
昭和61年10月31日  
発行者 蓬萊町会部  
編集者 文部

## 蓬萊町界限(その十二)

### 蓬萊町の電車(一)

林 順 信

☒本郷三丁目までしか電車はなかった

「チーン。次は降りらいちゅー、お降りの方はご用意がいます。前をあげて下さい。降りる人が降りられません。そうそう、前をあげてあげて……」  
「お乗りの方はご順にねがいます。途中で立ち止まらないで下さい。ご順にお詰めねがいます。あと二人です。はい。チンチン、うごきまーす。」

昔なつかしい路面電車の車掌のやりとりだが、ずいぶんと無理難題をおしつけていたものだ。電車の真中の方まで詰め込んでおいて、いざ降りるとなると、さっさと出口まで用意しろというのだから、電車をうまく乗りこなすのも一と苦労だった。電車では「チーン」とかね一つは停車、「チンチン」とかね二つは発車の合図だった。電車は走り出すというよりも、たしかに

「うごーく」感じなのであった。

長い間、蓬萊町の住民がお世話になっていた電車が姿を消したのは、昭和四十六年三月十七日が最後だった。あれからもう十五年の歳月が流れた。都心に住む我々と切っても切れない関係にあった路面電車について、少し整理しておきたいと思う。

そもそも、本郷区に最初に電車がやって来たのは、明治三十七年(一九〇四年)一月十五日で、当時は、まだ東京市電というものはなくて、私営の東京市街鉄道会社線(街鉄線と市民は呼んでいた)が、やっと本郷三丁目まで開通した。この街鉄線は、甲州出身の雨敬(あまけい)こと、雨宮敬次郎の率いる電車線で、彼は同時に中央線の前身である。甲武鉄道会社の社長をも兼ねていて、今日ならすぐ週刊誌のネタになる程の名物男だった。この街鉄線は、みどり色の車体で知られ、車庫を三田、青山、新宿、本所(亀沢町)と、明治時代最大の路線網を誇っていて、明治四十四年に市電になるまでのメジャーだった。

三田の車庫のことを秋葉原と同じ呼び方で薩摩原(さつまげばら)と江戸っ子は呼んでいた。その三田車庫から出発した街鉄線は、芝園橋を渡り増上寺山門前から御成門、桜田本郷町(田村町一丁目)、日比谷に出て来て、十文字の交差点を突切って北道、馬場先門、神田橋を渡って小川町を右折、今度は、現在評判の神田まつやそ

は店の前を通り、当時の須田町(万世橋広場)で左折、神田明神の前を過ぎて、本郷三丁目まで折り返していた。電車が本郷区内に始めてやって来たのだから、蓬萊町界限の人々は、三丁目まで電車見物に赴いたことのあるお年寄りもおられるかも知れない。

この街鉄線は、同じ年の十一月八日には、切通坂を下って、上野広小路まで延長された。

「本郷もかねやすまでは江戸の内」と古川柳によまれている通り、本郷三丁目の四辻までが江戸的で、商家も高樓に豊(いらか)を重ね、そこから北へは、加賀前出家の上屋敷があったとしても、江戸近郊の入口という感じだったのだろう。電車は、右折して上野広小路、麩橋の方に行ってしまったのが明治時代を一貫した状態だった。当時の小学校で歌われた『東京地理教育 電車唱歌』にもこのあたりは冒頭に次のように出てくる。

「玉の宮居は丸の内 近き日比谷に集まれる

電車の道は十文字 まず上野へと遊ばんか  
左に宮城おがみつつ 東京府庁を右に見て

馬場先門や和田倉門 大手町には内務省  
渡るも早し神田橋 錦町より小川町

乗るかえしげき須田町や昌平橋をわたりゆく  
神田神社の広前を すぎて本郷大通り

右にまがりて切通し 仰ぐ湯島の天満宮……」

### ☒電停蓬萊町の誕生

一方、小石川辺の方は意外と早く電車の恩恵に浴した。明治四一年（一九〇八年）四月十二日に、本郷三丁目から真砂町、春日町を経て、小石川町までが開通した。同じ日には、神保町、水道橋、春日町間に電車が敷けた。更に翌年（一九〇九年）一月二十日に春日町から指ヶ谷町に、明治四四年（一九一一年）七月十四日には、遂に白山上を経て小石川原町まで電車が開通していたから、蓬萊町の北部の方にお住まいの方々にいち早く開通していた白山を通る電車を利用した記憶のある人も居られるだろう。このことは地下鉄の方でも同じことがいえて、小石川地区に一日の長があるのがしゃくの種だ。

本郷の東京帝大の前の道は、市区改正の計画で、東側が約六メートル拡巾されたが、これがなくても路面電車は通せるだけの道幅はあった。ただ、帝大の理学部の地震研究室があるので、大学のそばを電車が走ることで、地震計が動くのでは困ると、浜尾新学長が反対したというエピソードがあるが真実は解らない。ただ、昭和戦前までは、赤門前の電車道には、「模範道路」と称して、木煉瓦を線路の外外に敷きつめてあった。これだと電車の震動が伝わらないですむということを聞いていた。

小石川地区に遅れをとった本郷通りも、大正二年（一九一三年）三月十五日、本郷三丁目と本

郷追分間がとりあえず開通し、大正四年（一九一五年）三月八日には、遂に、本郷追分から本郷

肴町、さらに、横町通りを通って白山上までが開通して、ここに、始めて電車が町内を走ることとなった。この時は、肴町から更に北へということはすぐには考えられず、大正六年（一九一七年）六月四日に、やっと肴町から郡市境界までが開通した。郡市の境界線は、昭和七年十月一日の、大東京三十五区制が誕生するまでの、上富士前町の北の染井や駒込辺のことで、そこはまだ東京府南豊島郡に属していたからである。そして駒込橋までは大正十一年（一九二二年）に、翌年にやっと飛鳥山まで開通、市電飛鳥山線の俗称で呼ばれるにいたった。駒込分車庫も大正十二年になって出来た。

これでやっとこさ「わが町に停留場がある誇り」といえる蓬萊町とはなった。時あたかも第一次大戦が勃発したり、秋には、大正天皇の奉祝の花電車が拵えられたが、この花電車が、それまでとは異って「人を乗せない花電車」の元祖であった。

### ☒車庫はあくまで巣鴨車庫

今日、蓬萊町という町名は、あの愚劣極まりない役人たちの暴挙で消滅させられて、向丘二丁目なんてバカげた町名になってしまったが、都バスの停留所向丘一丁目にやって来る、都電の代わりをする茶51系統を利用されている町民

は多いと思うが、いかに茶51系統の方が実績があるうとも、あの都バスの車庫は巣鴨車庫の所轄するところで、駒込駅前には只単なる操車場の扱いだ。そして、空っぽの回送車が何台となく駒込駅、上富士前、千石一丁目、巣鴨車庫へとムダな回り方を繰り返しているのである。これは、大正初期に、本郷通りに市電が開通した頃から七十年以上も続いているしきたりである。

本郷よりもいち早く市電の通った小石川と鶯籠町と巣鴨駅の電車を管理する巣鴨車庫が、大正二年二月二日（一九一三年）に誕生していた。

駒込車庫といていた駒込駅東北にあったのは、あくまで巣鴨営業所駒込分車庫にすぎなかった。

最初に蓬萊町を通った市電は、巣鴨車庫前から、巣鴨橋、西丸町、鶯籠町、原町、曙町、白山と電停を通って来て、白山上を左折して横町商店街を走り、本郷肴町で今度は右折、蓬萊町、本郷追分町、高等学校前、大学正門前、大学赤門前、本郷三丁目から三田方面へと向かっていった。乗車賃は当時の悪税といわれた通行税一銭共で片道五銭、往復なら九銭だった。これは始発から朝七時までに乗れば、大人片道三銭、往復五銭だった。ただ、電車に乗って行先を車掌に告げると、車掌は大きな（宝くじ位の大きさ）乗換切符をくれた。乗り換えは一度ならず、二度も、三度も出来た。網のように張り巡らされた市電路線図が表面に印刷され、右側に時間表

があつて、車掌は、乗り換え停留所と目的地と時間帯との三か所にハサミを入れてくれた。中には、わざと裏面からパチパチとハサミを入れても、その場所がピタシカンカンという程の名人が各車庫にはいたものだ。電車賃が大正初期に五銭だの九銭だのというのは、庶民にとつて決して安いものではなかつた。

蓬萊町を通過していた各電車の系統番号と先行のこと、戦時中の急行の都電が、蓬萊町をオミットした話などは、次の機会にゆずる。また、前回からの宿題の番町あたり(Ⅲ)は、都合で後日に述べるつもりでいる。

### 町会活動の概要

昭和61年7月から昭和61年10月まで

#### 総務部

本年の根津神社御祭礼に際しましては、町内の皆様より過分なるご厚志を賜りお陰をもちまして盛大に祭礼を挙行することができました。町会より厚く御礼を申し上げます。

祭礼についての会計報告は本号の頁末に掲載してございますので、ご一覽下さるようお願い申し上げます。

7月1日 事業調査を行いました。

7月10日 向丘地区町会連合会 連絡会議

8月 地区担当役員の変更

野呂瀬、楠、ご両氏は、都合により退任され後任に梶谷、坂本のご両氏が就任されましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 防火防災部

7月27日 町内に区が設置しております屋外消火器(当町会内20か所)の保守点検が実施されました。最近付け火とみられるボヤが多発しております。発見が遅ければ大きな火災にもなりかねません。どうぞ皆さんのお住まいの周辺には燃えやすいものは置かないよう充分ご注意ください。

#### 交通部

9月20日から9月28日まで  
「秋の交通安全運動」が実施されました。この期間中には交通部、婦人部、友の会の皆さんによって街頭指導を行い、交通事故の撲滅を呼びかけました。

#### 婦人部

「ゴミ」は収集日の当日に、定めた場所へ出すようご協力下さい。一部の方ですが収集日以外の日に出す人を見受けられます。このような不

法行為は清掃法の定めによって罰金刑に処せられます。ご近所でこのような人を見受けられましたら慎むよう注意してください。

10月 「赤い羽根共同募金」

募金にたいしては町内皆様の暖かいご協力を得まして今回も左記の金円が集まり誠に有り難うございました。

一金 壹拾五萬四千參百五拾円也

9月8日 敬老天ぶら会が海蔵寺にて行われ、婦人部がお手伝いに参加

9月15日 町会よりご高齢の方に敬老を祝し、祝品をお贈りしました。

#### 防犯部

10月11日から10月20日まで「全国防犯運動」町内でも空巢などの被害が多発しております。戸締まりには充分気をつけて、近隣の方と連絡を取り合つて被害に合わないよう注意してください。

#### 青年部

7月27日、8月10日の両日、大観音において「工作教室」を開催、子供さん達に廃品を活用して作る一日教室を開きました。

#### 編集部

つい先頃までの陽気が嘘のように秋も深まり、朝晩はめっきり冷え込むようになりました。今年冬の到来が早いようです。会員の皆様には充分健康に留意されてご活躍下さい。

## 昭和61年度根津神社祭礼経費決算報告

祭礼日 昭和61年9月20日(土) 21日(日)

収 入		支 出	
前期繰越金	226,076	支払総額	1,710,090
御仮屋所 190件	1,172,000	次期繰越金	445,846
御神酒所 129件	739,000		
雑収入	1,8860		
合 計	2,155,936	合 計	2,155,936

奉納品 清酒36本、ビール32本、ジュース200本、祭礼ポスター100枚、缶コーヒー150缶、鮮魚一盛、榊2対

支出科目	金額	内 訳		
		内	訳	
寄付募金費	182,000	案内状、封筒	21,800	
		奉納掲示用紙	2,700	
		最中・供え餅	157,500	
神社奉納費	132,000	祭礼分担金	122,000	
		高張提灯奉納	5,000	
		初穂料	5,000	
御仮屋所・御神酒所設営、撤去費	354,680	神酒所、御仮屋供物	9,700	
		消耗品、工事費他	23,830	
		材料趣	84,150	
		トビ工賃	135,000	
		〃 祝儀	25,000	
		拡声機リース代	12,000	
		車両借用代 3台	15,000	
神輿・山車・渡御費	510,190	御仮屋、神酒所御礼	50,000	
		折詰、弁当、おにぎり	199,000	袋菓子 60,000
		酒、ビール、ジュース	80,120	茶菓子他 72,870
		煙草他	11,200	手拭他 48,800
		ヤクルト	8,400	ヤキ鳥 29,800
祭礼備品保存費	47,060	ナフタリン	1,650	
		クリーニング代	45,410	
雑 経 費	484,160	委員会食事代	112,160	
		鉢洗費用	190,000	
		青年部鉢洗費用	120,000	
		婦人部御苦労会費	50,000	
		会計会議食事代	12,000	
合 計	1,710,090			

祭礼会計 堀江頼治 加藤鞆美 猪熊良晃

＝お知らせ＝ 蓬萊だよりに毎回原稿をお寄せいただいております『林 順信』氏の新著が  
 出ました。いま、東京ブームの中で話題を呼んでおります。

保育社『カラーボックス・おもいで都電』、同じく保育社から『カラーボックス・駅弁』11月  
 25日発行予定。共に定価500円です。